

# 議会活性化 特別委員会会議録

令和5年9月7日(木)本会議終了後  
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

# 議会活性化特別委員会

日 時：令和5年9月7日（木）

本会議終了後～

場 所：3F 議会委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

1) 来期に向けて（申し送り事項）について

2) その他

5 閉 会

### 出席議員（10名）

1番	山崎晴生君	2番	真家功君
3番	戸田見良君（副委員長）	4番	香取憲一君
5番	長津智之君	6番	島田清一郎君
7番	鈴木俊一君	8番	村田春樹君（委員長）
9番	欠員	10番	石井旭君
12番	長島幸男君	19番	荒川一秀君（議長）

### 欠席議員（なし）

---

### 議会事務局職員出席者

局長	戸塚康志
次長	須賀田千恵子

◎開議の宣告

○副委員長（戸田見良君） お疲れさまです。皆さんお揃いになりましたので、ただいまから、議会活性化特別委員会を開催いたします。

委員長挨拶、村田委員長をお願いします。

○委員長（村田春樹君） 皆さん一般質問のあとにご参集いただきまして、誠にありがとうございます。お疲れさまでございます。

今回、協議事項といたしまして、来期の申し送り事項ということでございますけれども、皆さまの忌憚のないご意見をいただきながら、来期議会活性化に向けて、しっかりと協議できればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○副委員長（戸田見良君） ありがとうございます。それでは、協議事項に入ります。協議の進行は村田委員長お願いいたします。



◎協議事項

1. 来期に向けて（申し送り事項）について

○副委員長（村田春樹君） スマートディスカッションのほうに、参考資料としまして、令和3年の全国の事例と、令和4年の全国の議会活性化の事例ということで載せてあります。市議会の最前線で輝く議会の記事となっておりますので、小美玉市議会としましても、来期申し送り事項としまして、このようにしていきたい、そういったものがありましたら、皆さま方にご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

島田委員。

○6番（島田清一郎君） 常任委員会は次回もあると思うのですが、この議会活性化委員会は新しく議会が変わったときに、つくられる可能性はあるんですか。わたし初めてでわからないのですが。

○委員長（村田春樹君） 議長が設置するような形になると思うので、その次の議長がもしやらないとなった場合には、議会活性化はなくなってしまうと思うんですけども、またそれに代わる何か、違う委員会ができると思いますので、それに対しましても申し送り事項として、何かこの中での案があったら活性化していくと思いますので、何か案をいただければと思います。

島田委員。

**○6番（島田清一郎君）**　そういうことになると、継続するのは、次期当選した人が継続して気持ちを持っていて、活性化ができたときに、昔はこうだったなという形がいいのかと思うのですが、ここでわたしたちが決めてしまっても、メンバーも違うし、考え方も違うと、どこで申し送りするか方向が分からなくなってしまう気がするんですけど。皆さんの意見言ってもらえれば。

**○委員長（村田春樹君）**　長島委員。

**○12番（長島幸男君）**　わたしも同意見で、ここはこのメンバーで今期はやっていましたが、来期はどういうメンバーになるかわからないと、あとは委員長が言われましたように、これは議長からのあれで特別委員会つくったわけですよ。ですからそのときの議長の考え方もあるんで、申し送りというのはどうなのかと。今回わたしの考えでは特別委員会開かなくてもよかったんじゃないのかなとこう思っているのですが。

**○委員長（村田春樹君）**　香取委員。

**○4番（香取憲一君）**　わたしの考えは、今先輩方からご意見出していただきましたけども、画面にも色々調べていただいた、ディスカッションにもアップしていただき、具体的なことなわけでありまして、次改選後、この委員会が同じ名前でなるか残るか、継続するかは分かりませんよね。なので、せっかく今日集まったんであれば、もし似たような趣旨で新しいメンバーで特別委員会を設けられる、そのときのメンバーでもしはじまる場合には、具体的なテーマを、大きな目標のテーマをみんなで決めてつくって、そこで解決に向けてやっていこうと、大きな目標そこを今回みんなで決定というよりは、もし、次もやるのであれば、そういうところからスタートしましょうという状況よりは、全くないよりはあったほうがいいと思うので、今日の委員会であればいいのかなと感じてます。

**○委員長（村田春樹君）**　その他ございませんか。

長津委員。

**○5番（長津智之君）**　特別委員会を申し送り事項と今まであるんですか。わたしはじめてなんで、期数が切れたときの申し送り、特別委員会って申し送り事項は今までの事例であるんですか。

**○委員長（村田春樹君）**　前回議会活性化という名前ではなくて、議会改革。

須賀田議会事務局次長。

**○議会事務局次長（須賀田千恵子君）**　前回は、議会改革特別委員会というのがありまして、

そのときには、議会報告会のほうのはじまりでしたので、その内容でやっていた経緯があります。今までないと思います。

以上です。

**○5番（長津智之君）** 特別委員会だから、常任委員会は当然ありますよね。特別委員会というのは特出しの部分ですよね。1つの部分を全員で特別に協議していく。だから、新しい議長が決まって、議会の組織が決まって今年度は今期新しいあれをするときに、みんなで特別委員会を設置していくんですから、わたしは今回の議会活性化特別委員会はもう無理ですからねこの先やっても。1回ここで切って新しい選挙洗礼を受けまして、新しい議員になって、新しい組織の中でまたそのときはじまればいいのかなどと思っております。

以上です。

**○委員長（村田春樹君）** 鈴木委員。

**○7番（鈴木俊一君）** 申し送り事項の結論が、次の議会でどうなるかわかんないとしても、この委員会の最後の締めくくりとして、こういうことを活性化に向けてやっていたということをもとめて保存しておくというのは必要かなと思いますので、申し送りというよりは、この議会で今、何やってきたのかももう1回見直して、今回こういうことまでできましたとか、やっておいてもいいのかなという気はします。ただ、申し送り事項として今日提案しようと思っていたことがありまして、県議会でもやった休日議会、土日に議会を開くとか、これから開くのにこういうのを次回やらしてもらえばいいかなと思っていたので、ここで何もなくてもいいとは思いますが、それだけ言いたかったなというだけで、そういう議会、休日だとみんな見にくれたりするということと繋がるので、あったらいいなということで、休日とか夜間議会やっているところもあるので、そういうのも1つ次の委員会でできたらいいなという思いがありました。

以上です。

**○委員長（村田春樹君）** 山崎委員。

**○1番（山崎晴生君）** 議会報告会いつも活性化のときはその件で自分は去年から参加して中では議題だけだったかなというふうに思うんですけども、議会報告会がなくなったというところで、また、違う形を模索していくのは次の人に任せたらというご意見も前回あたりあったのかなと思いますので、そういった思いというところでは、今、議会活性化特別委員会のほうで鈴木委員が言ったように、こんなことを話し合っ、次はそういう思いで活動していったので、それを見返すというところで、次同じような委員会ができればそれを見返すというところで、そういう経緯がわかっていいんじゃないかと思えます。

以上です。

**○委員長（村田春樹君）** 真家委員どうですか。

**○2番（真家 功君）** 長津議員同様の考えでありました。申し送りという形は特別委員会なんでないのかなというふうには思っておりました。

以上です。

**○委員長（村田春樹君）** 石井委員。

**○10番（石井 旭君）** わたしも特別はなかったんですが、今の山崎議員とか、鈴木議員のほうから、議会報告会が無くなったと思ってるんですが、経緯はタブレットで配信していたり、コロナ禍もあったのかもしれないんですけど、実際人が集まらないんで、議会報告はテーマを持ってやるのであれば、区長会とかなんかのPTAとか、そういうところで意見が出ていたんじゃないかと記憶しているし、今、鈴木議員が言ったように、県議会の日曜日とか夜間とかというんですけど、わたしも詳しくはわからないんですが、それは自民党の議員さんだけでやっているんじゃないかとわたしは思うんですけど、それは事務局がやっていて、わたしではなくて、議会事務局に負担に係ることであって、やはりこの議会活性化の中では区長会とかそういうところにお邪魔させていただければやるということで、そういう形のほうがもしやるのであればテーマを持って、そしてそのことに対して質問というか、答えることもできると思うので、そういうことがいいんじゃないかと思いました。すみません。

**○委員長（村田春樹君）** ありがとうございます。

戸田副委員長どうですか。

**○3番（戸田見良君）** 令和3年から令和4年、令和5年と全部で15回ぐらい議会活性化委員会をやったということなんですが、毎月やった年もありましたし、コロナ禍でありましたけれども、進められる部分もあったのかなと思って、今後また議会活性化のような分野の特別委員会があればさらにいいなと思いつつ、その思いでおります。

また、次期の方々と頑張ってやれたらいいなと思っていますので、以上です。

**○委員長（村田春樹君）** ありがとうございます。この議会活性化が発足されてから、政務活動費であったり、タブレットであったり、ハラスメントの研修であったり、いろんなことをこの皆さんで経験させていただきました。本当にありがとうございました。その中で、先ほどから議会報告会という話しがございました。自分のほうで調べてみたんですけども、取手市議会のほうでは、中学3年生の教室に出向いて、出前講座みたいな形でやっているところもあったんで、そういうのも次回もしそういったことが協議ができたときには、考えてもいいの

かなというふうに思いますので、こういったことを少し残しておきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

荒川議長。

**○議長（荒川一秀君）** いろいろ皆さんからご意見ありがとうございます。

まず、特別委員会の趣旨と、存在価値というものが原点かな最初に。最初の笹目議長のときにつくったわけだから、わたしも経緯はわかんなかったけど中身のあれはね、つくろうというのには賛成してつくってきたわけだから、議長1人が決めるものではないので、みんなで決めるわけだからその設置をするのに、皆さんから提案してこういうものをつくるべきだというようになればできるわけだし、ですからこのメンバーが来期全員が当選したときに必要だと思えばやればいいんであって、名前は違うけどもそれだけで活性化だしね、前は改革だけど、名前は違うけども議会内部を少しでも施策とかなんとか、今ならば令和5年にあった議会ですよ。これから先はどうなるかという見通し、過去を見ながら温故知新の考えで、風紀を訪ねながら新しみを知りながら議会をやっていこうというのが趣旨だったと思うのですよね。その中で今言ったような色んな事業が並んできた、わたしは成果が上がったと感謝しているところです。議会運営委員会もありますよね。この特別委員会があって議運にかけて、そして全協にかけるというような段階もあるわけですよ。そうすることによって広く会議を起こして行って、何よりいいものを出していくというのがあれだと思うんですね。ほかの市のやり方も今大事なことですけども、まずは自分のところはどうかということ、先ほども石井副議長が言ったように、報告会は今お話があったように、これは発展的解釈ですよ。名前とか考え方としては。現状にあったのにしていかななくてはというのがわたしの考え方ですよ。だから結果的にはよかったのかなというふうに思ってます。きちんとそれなりの報道はしているわけですから正解だったのかなと思ってます。わたしも先程鈴木議員からの夜間議会もそういうことも前から出ているんだけど、執行部との連携も必要だし、そういうなことの大事なことで、何もこの委員会が終わったからと言ってなくなるということではなくて、1つの目的になるとかそういうことだと思うんですよ。段階を経てなっていくのかなと思えます。わたしのほうからこの会は今日で終わるかもしれませんが、皆さん方が当選されて議員さんになったときに、わたし2、3点議長としてやってきて気が付いたことを申し上げたいんですけども、まずは一般質問のときの同じ項目で質問されていて、ポツと切って違うこと言うと、いったりきたりの時間が執行部の時間が長くなっちゃうんですね。執行部が答弁したことに對してすぐ同じことを突っ込んで質問するのだったら出入りしてもいいと思う。違う項目で関連性のあることでポツと

切ってしまうんですね。それは続けて言えばそのまま続けて答弁できるというやり方ですね。それはこれから考えていただきたいなということです。まず、議会内部のことですよ。他の議会と対象ではなくて。特別委員会の日程のもっていき方なんですけど、一般質問をやる前に特別委員会を開かれてしまうと、特別委員会に所属している人が職員を待たせておくんですよ。何時間かかるかわからない1時間かかるか、30分で終わるのか、そこのロビーに、優秀な人材を待たしておくんですよ。わたしは経営者の感覚があるから従業員にあなたは幾ら払っているんだって言いたくなるくらいで経営者はやるわけですよ。そういうことも考えもんだなと思うんですね。ですから、一般質問の前には特別委員会は開かないとか、または呼びつけしてまたせないとか、どっちかにしてやっついていかないと活性化にならないのかなという気がします、それが2点目。

それともう1つ、今回全体研修においてわたしの不徳の致すところでもって中止になりました。不徳としても天候問題もありましたけども、それに対してのキャンセル料に対して保険を掛けておけばよかったんだけど、それを提示されなかったのも、保険を掛けなかったんだよね。だから半額以上皆さんからあとで精算しますけども、半額ぐらい払うようになったんですよ。そういうことで、とにかく天変事変で行けないというのはしょうがないと思うのですが、病気とかなんらかで、わたしが個人的に旅に出るとか、飛行機を使うとかしたときには全額とられてしまうんですね。それは個人負担なんです。それを今までわたしも経験がなかったんで、今まで全部参加していたからそういう経験が自分ではないんで、キャンセル代を払ったことがわからない。良く聞いたら、公費である程度出すんだとキャンセル料を。それでいいのかなと疑問を思ったんですね。ある程度は公費で持てる部分もあるかもしれないけども、しかし自分の都合でどうしてもキャンセルしたという場合には、これからの先公費を使わないで自分で自腹切って払うとか方法はあると思うんですね。慎重に考えなければいけない、こういうふうなことを考えていたんですが、この3点なんですけど、別にここで結論をどうのこうのではなく、この次回の議会で皆さん方で検討していただきければ有り難いかなと。まずはこの、反省点として活性化委員会に報告、提案しました。

以上です。

**○委員長（村田春樹君）** ありがとうございます。これでだいたい皆さん出揃いましたかね。

このことに関して、しっかりと事務局と副委員長とまとめて、最終日の全協のときに少し報告させていただいて、今回の委員会のほうは閉じさせていただきたいと思いますので、よろしいですか議長。

---

◇

## 2. その他

その他、特になければ終りにさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

[「はい」の声あり]

○委員長（村田春樹君） 副委員長よろしくお願いします。

### ◎閉会の宣告

○副委員長（戸田見良君） それでは以上で、議会活性化特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後 3時45分 閉会